

第1期 平成12年5月30日策定
第2期 平成18年3月30日改定
第3期 平成26年3月31日改定
第4期 平成31年4月11日改定

第4期 佐潟周辺自然環境保全計画



2019年4月

新潟市

はじめに



古くから川湊^{みなと}として栄えてきた「みなとまち新潟」は、2019年(平成31年)1月1日に開港150周年の大きな節目を迎えました。日本有数の大河である信濃川、阿賀野川と日本最大級の新潟砂丘から成り立ち、日本海側の交流拠点として多くの人とモノの動きによって発展を続けています。一方で、越後平野には古くから多くの潟がありました。本市には、現在16の潟が残されており、豊かな自然環境を形成しています。本市のアイデンティティーである潟を「地域の宝」として、しっかりと保全し情報発信を行っていくことが大切です。2018年(平成30年)には、本市がこれまでの調査、研究を取りまとめた、「みんなの潟学」を出版しました。これを契機に、より多くの皆さんから本市の潟に関心を持っていただけることを期待しています。

16の潟の中でも本市を代表する潟の一つである佐潟では、保全活動に関するさまざまな取り組みが行われています。佐潟は1996年(平成8年)に、日本で10番目となるラムサール条約湿地に登録されました。また、2000年(平成12年)には、佐潟周辺自然環境保全計画を策定し、これまでに2度の改定を行ってきました。3回目の改定となる本計画では、「保全・再生」、「賢明な利用(ワイズユース)」といったラムサール条約の理念や「里潟」^{さとかた}の考え方を継承するとともに、2015年(平成27年)に国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の視点を新たに盛り込みました。ラムサール条約の理念や「里潟」の考え方は、環境、経済、社会に関するさまざまな問題の解決に向けたSDGsの考え方と合致するものと言えます。

また、このたびの計画の改定に当たり、市民の皆さまが考える2050年の佐潟の将来像をイラストで作成しました。将来のイメージを多くの皆さまと分かりやすく共有できれば幸いです。

市の鳥「ハクチョウ」をはじめとした多くの動植物が集い、恵み多き魅力のある佐潟の自然環境を後世に引き継ぐために、本計画を実践し、環境の保全、魅力の発信、越後平野の他の里潟との連携に、多くの皆さまと一緒に取り組んでまいります。

2019年4月

新潟市長 中原 八一

【目 次】

第 1 章 計画の改定にあたって

1	佐潟の概要	1
	(1) 自然保護対策	2
	(2) 自然環境	3
	(3) 佐潟の歴史と人との関わり	11
	(4) 周辺の農業について	15
	(5) 野鳥愛護の歴史	15
2	計画の位置付け	16
	(1) 策定経緯	16
	(2) 位置付け	17
3	第3期計画の取り組み内容の評価	19

第 2 章 目標と基本方針

1	基本的な方針の策定に向けた考え方	27
	(1) 里潟の精神	27
	(2) ラムサール条約の精神	28
2	基本的な方針	29
3	佐潟の将来のイメージ	31
4	基本的な方針に基づく目標	33
5	計画期間	35

第 3 章 具体的な取り組み

1	具体的な取り組み	39
	基本的な方針 I	39
	(1) 多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり	39
	(2) 佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全	50
	(3) 調査・研究結果の有効活用による 自然環境保全の推進	64
	基本的な方針 II	68
	(4) 昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、 佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり	68

基本的な方針Ⅲ	7 5
(5) 福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進	7 5
(6) 佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした 質の高い活動の展開	7 9

第4章 推進体制と進行管理

1 推進体制	8 3
2 進行管理	8 4
(1) 進捗状況の管理・公表	8 4
(2) 計画の見直し	8 4

資料編

本計画について

○本文中で“※”が付いている用語(初出に限る)は、巻末資料で解説しています。